

学校だより

# 友 愛



令和4年度 No.6  
川越市立福原小学校  
令和4年10月1日

【学校教育目標】・かしこく・やさしく・たくましく

「良き伝統の中にも流れる「友愛」の絆を大切にしたい  
心広く大らかな児童の育成」

◎10月の生活目標

・1日に10人以上と  
元気に挨拶をしよう！

## 《特集》 家庭学習のすすめ！ — 学力向上のカギは家庭での生活や学習にあり —

校長 三上 正明

### 1 人が生きていくために学力は大切！

「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」と言えり。されば天より人を生ずるには、万人は万人みな同じ位にして、生まれながら貴賤上下の差別なく、……（中略）……されども今、広くこの人間世界を見渡すに、かしこき人あり、おろかなる人あり、貧しきもあり、富めるもあり、貴人もあり、下人もありて、その有様雲と泥との相違あるに似たるはなんぞや。その次第はなはだ明らかなり。『実語教』に、「人学ばざれば智なし、智なき者は愚人なり」とあり。されば賢人と愚人との別は学ぶと学ばざるとによりてできるものなり。

これは、『学問のすすめ』（福沢諭吉）の冒頭の一節です。福沢は学問と学ぶことの意義について広い視野から述べていますが、学ぶことによって身に付けた様々な学力が、社会で生きていくために必要なものであり、人生をより豊かにすることは、だれもが理解していることと思います。また、自ら進んで学んでいこうとする意欲や態度・学び方などの学ぶ力、それによって身に付けた基礎基本の知識・理解・技能や思考力・判断力・表現力、自ら課題を見出し他者と協調して創造的に解決していく力など、生きる力の基本である確かな学力を着実に身に付けてきた人と、そうでない人の人生に少なからず差異が生じることも厳然たる事実であることは否定できません。

子どもたちが将来社会で自立し、より良く生きていくことができるようにするためにも、学力を身に付けさせていくことは最も重要なことであると考えます。

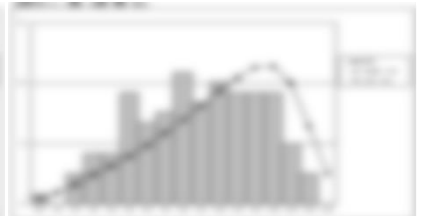
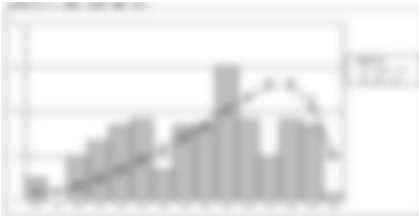
### 2 学力から見た本校の現状 ～やればまだまだ伸びる子どもたち～

今年度の全国学力・学習状況調査における本校の結果は下記の通りでした。全国学力調査は、毎年6年生を対象に国語・算数・（今年度は理科も実施）・質問紙により実施されています。

＜本校・県・国の平均正答率＞

＜国語正答率分布＞ ※棒グラフが本校

＜算数正答率分布＞ ※棒グラフが本校



表のように各教科ともに国・県の平均正答率を下回っています。また、正答数の分布を表したグラフのように、たくさん正答できた児童が少なく、あまり正答できなかった児童が多いことがわかります。このような結果は、これまで長く続いてきた状況であり、**学力向上は本校の長年の課題**であると言えます。そこで、本校においても学力の向上を大きな重点目標として掲げ、全職員一丸となって取り組んでいます。学力が短期間で飛躍的に向上することは稀であり、長期にわたって根気強く継続して取り組んでいかなくてはなりません。しかし、その成果は少しずつですが現れてきました。今年度の埼玉県学力学習状況調査にお

いては、平均点は県平均に及びませんでした。上の表の通り「昨年より学力を伸ばした児童の割合」や「1年間の学力の伸び率」では県の平均を大きく上回ることができました。「福原の子どもたちはまだまだやればできる。伸びしろがいっぱいある。」とあらためて感じているところです。

### 3 学力向上のために学校で取り組んでいること

#### （1）まずは基礎基本を定着させたい！

とりあえず、「読み・書き・計算」の基本がしっかりと身に付いていなくては、当然それを活用した応用問題なんて解くことはできないし、課題解決的な学習や発展的な学習をやろうとしても何をしていいのかわからないということになってしまいます。そこで、まずは漢字や語句などの知識や計算の技能など、基礎的な内容について繰り返し取り組ませる指導を根気強く継続して

います。

## (2) 読解力(読んで理解する力)をつけたい!

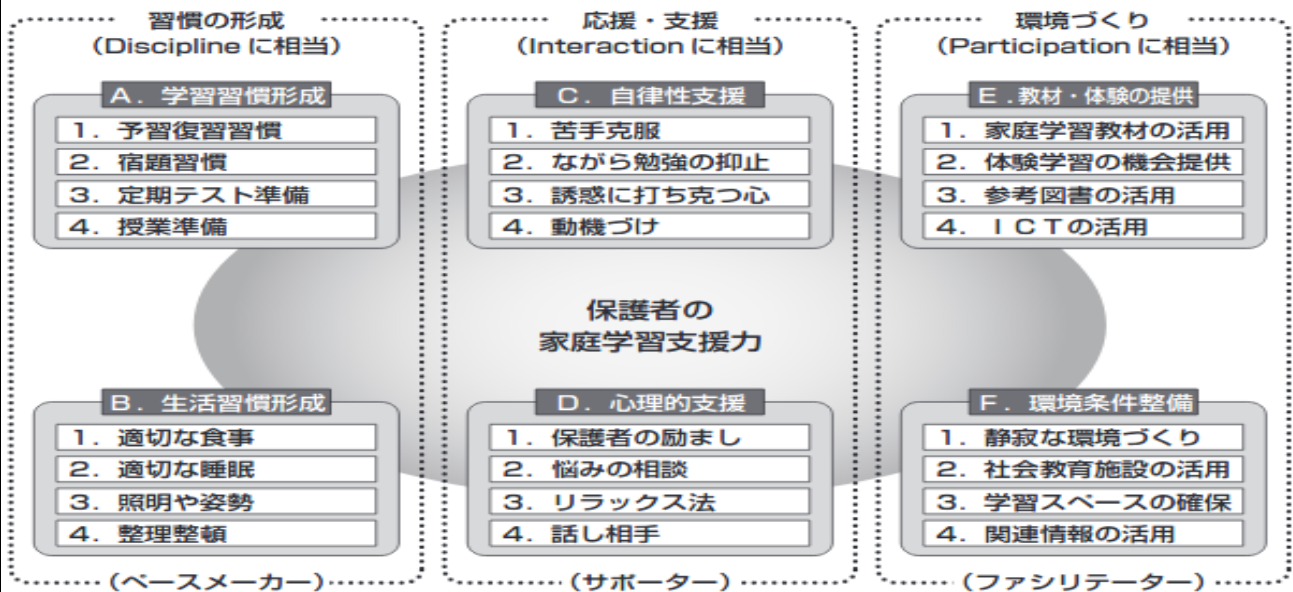
国・県などの学力テストに対する解答の様子から、本校の児童は、「問題文の内容が読み取れない」「問題文で何が問われているのかわからない」「そもそも問題文が長いと読まない」「短答式なら解答できるが、記述式だと解答できない」などの傾向があることがわかりました。端的に言うと「**文章の読み書きが苦手**」ということです。そこで、文章を読んで何が書かれているかを読み解く力『読解力』、わかりやすく書く(話す)力『表現力』をつける指導に重点的に取り組んでいます。

## 4 学力向上のために家庭にご理解・ご協力いただきたいこと

### (1) 家庭学習の支援を多様な視点から考える!

下の図は、保護者をご家庭で家庭学習を支援することのできる内容についてまとめたものです。

「保護者の家庭学習支援力」の構造モデル



『授業と家庭学習のリンクが子どもの学力を伸ばすー学力向上のための基本調査 2008』ベネッセ教育総合研究所より

家庭学習の支援には、「勉強の面倒を見る」といった直接的な支援だけでなく様々な支援があります。各ご家庭では、次のようなことにご留意いただければと思います。

- ①「宿題や授業の予習復習などの学習習慣」「食事や睡眠、姿勢や整頓などの生活習慣」といった基本的な習慣を身に付けさせること。
- ②「学習に対する動機付けや自分を律する気持ちなどの自律性」を身に付けさせるとともに、「悩みなどの良き相談相手」となること。
- ③「学習教材や参考図書、体験学習や ICT 活用の機会」「静寂な学習スペースの確保」などの学習環境を整えること。

### (2) 「勉強する理由」を伝える!

学力向上のためには、お子さまが自発的に「勉強しよう!」と思うことが大事です。まず「自分のために勉強している」と認識してもらうために「勉強する理由」を上手く伝えてあげてください。頭ごなしに「いい成績を取るため」「やらなきゃいけないから」という理由ではなく、「勉強したことは日々の生活や将来の職業選択に役立つ」「勉強して知っていることが増えれば、人の役に立てる」ということを具体的に伝えてほしいと思います。

### (3) 家庭学習を習慣づける!

学校の授業だけでなく、学力向上のためには家庭学習も非常に大切です。文部科学省が公表している『全国学力・学習状況調査報告書』においても、学力向上に有効な手段の一つに「**家庭学習の習慣化**」が挙げられ、「家に帰ってからきちんと宿題をしているか」や「子どもが自身で計画を立てて勉強をしているか」などが大切であるとされています。

<家庭学習を習慣づけるには・・・>

家庭学習を習慣づける方法としては、「その日の目標を立てる」「ノルマを設定する」などがありますが、お子様の実態に応じて次のように取り組むことをお勧めします。

#### ①一緒に計画を立てる

一緒に計画を立てる場合は、お子様の実態に応じて「次の小テストで80点を取る」「宿題をいつまでに終わらせる」などの大まかな目標を決め、それに合わせて「1日にドリル2ページ」など具体的に「何を、いつ、どれだけやるか」という目標を決めていくとよいです。お子様のやる気が出

るよう、勉強できた日にはカレンダーにシールを貼るようにしたりするのもよいと思います。

## ②学習時間を決める

学習時間については、「1日10分×学年」の時間を目安に取り組みさせてください。学年に合わせて少しずつ時間を伸ばしていくことで、家庭学習を無理なく習慣づけられていきます。

## ③環境を整え、励まし、頑張りを認める

お子様の気が散らないようにテレビを消したりするなど、学習に集中できる環境を整えてあげるとはやる気を維持するために必要なことです。また、勉強中のお子様がお悩んでいそうなときは声をかけてあげたり、少しでも学習が進んだら褒めたり励ましたりして、精神的にサポートしてあげることがとても大切です。目標が達成できたら褒めてあげるのは当然ですが、達成できなかったからといってせめてしまっては、やる気をなくしてしまいます。結果よりもお子様の努力の過程を認めてあげるようにしてください。

(4) 家庭生活について考えていただきたいこと

### ①ゲームや動画視聴の時間を減らす

『全国学力・学習状況調査報告書』によれば、

※1日当たりのゲームの時間が長いほど、各教科の平均正答率が低い。(学力が低い)

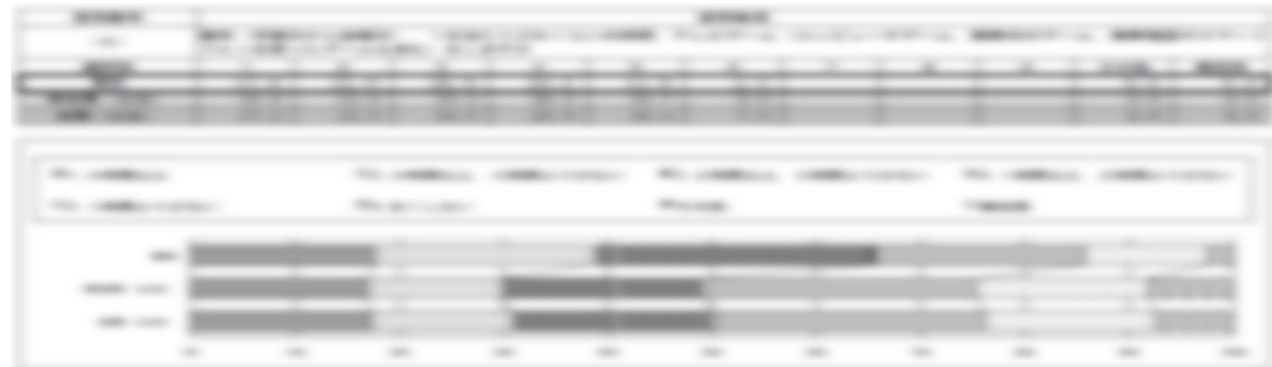
※1日当たりのSNSや動画視聴を行う時間が長いほど、各教科の平均正答率が低い。(学力が低い)

という結果が出されています。下の表とグラフは、「1日当たりのゲームの時間」について、本校・県・国の結果を表したものです。残念ながら、

※本校児童のゲームの時間は、県・国の平均よりもかなり多い。(→ 学力が・・・)

※ゲームと同様に、本校児童のSNSや動画視聴の時間も、県・国の平均よりもかなり多い。(〃)

という結果でした。使える時間には限りがあります。ゲームや動画視聴に費やしている時間を減らして、家庭学習の時間に充てていくことが必要ではないかと考えられます。



### ②読書の時間を増やす

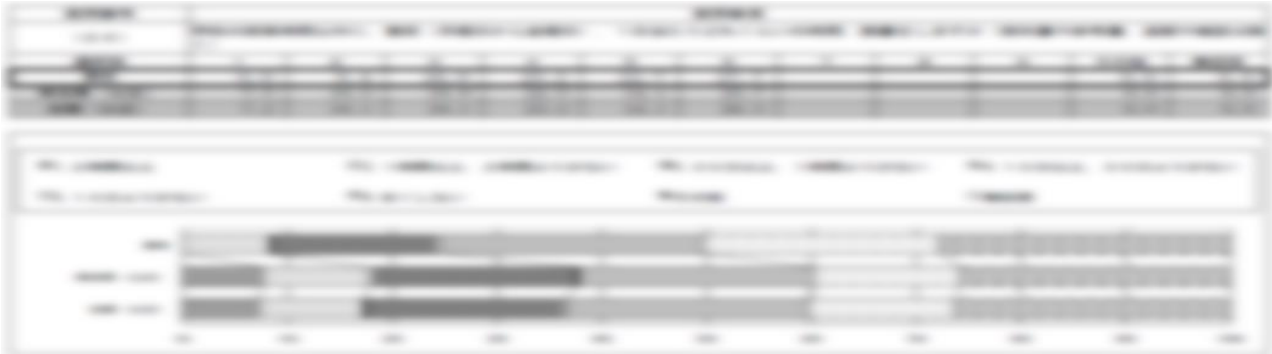
『全国学力・学習状況調査報告書』によれば、

※家にある本の冊数が多い・読書の時間が長いほど、各教科の平均正答率が高い。(学力が高い)

という結果が出されています。下の表とグラフは、「1日当たりの読書の時間」について、本校・県・国の結果を表したものです。残念ながら、

※本校児童の読書の時間は、県・国の平均よりもかなり短い。(→ 学力が・・・)

という結果でした。本校児童が文章を読み解くことを苦手としている理由の一つに読書不足が考えられます。読解力を付けるためにも、読書環境を整え、読書量を増やしていくことが大切です。



9月19日に国連の教育サミットで「子どもたちの安全で持続可能な未来のために教育を」と呼びかけたノーベル平和賞受賞者でパキスタン出身の女性人権活動家マララ・ユスフザイさんは、2013年7月12日の国連本部でのスピーチで次のように訴えています。

「本とペンを手に取り、全世界の無学、貧困、テロに立ち向かいましょう。それこそ私たちにとって最も強力な武器だからです。1人の子ども、1人の教師、1冊の本、そして1本のペンが、世界を変えられるのです。教育以外に解決策はありません。教育こそ最優先です。」